

報道関係各位

**(株)大塚製薬工場****ラコール<sup>®</sup>配合経腸用液(コーンフレーバー)****9月17日 新発売**

株式会社大塚製薬工場（本社：徳島県鳴門市、代表取締役社長：大塚一郎）は、医薬品経腸栄養剤「ラコール<sup>®</sup>配合経腸用液」200mL 製剤の新製品として、「ラコール<sup>®</sup>配合経腸用液」（コーンフレーバー）を9月17日に新発売します。

「ラコール<sup>®</sup>配合経腸用液」は、日本人の栄養摂取パターンを基に、たん白質、脂質、炭水化物、ビタミン、ミネラル、微量元素をバランス良く配合した半消化態経腸栄養剤です。長期の栄養管理に適した経腸栄養剤として開発され、たん白質は日本人の摂取パターンを参考に植物性たん白質の含量を高く、脂肪は n-3 系脂肪酸（ $\alpha$ -リノレン酸）を多く含有するシソ油を配合しています（n-3：n-6=1：3）。さらに、エネルギー効率に優れた MCT（中鎖脂肪酸トリグリセリド）を配合しています。

経腸栄養による栄養管理は長期にわたることが多くみられ、栄養効果が高く、風味の良い、利便性に優れた製剤が望まれています。

「ラコール<sup>®</sup>配合経腸用液」は、経口摂取時の患者さんが継続して服用しやすいよう、甘さを控えた味に設計しています。さらに、利便性を考慮した液状製剤であり、容器にアルミパウチを採用しています。

この度のコーンフレーバーの新発売により、「ラコール<sup>®</sup>配合経腸用液」の 200mL 製剤は、ミルクフレーバー、コーヒーフレーバー、バナナフレーバー、コーンフレーバーの 4 種類になります。

医療や介護の分野では、病状回復や生活の自立を助けるために、よりよい栄養状態を保つことがますます重要になっています。特に医療の分野では Nutrition Support Team（NST：栄養サポートチーム）が普及し、患者さんの状態にあわせた栄養管理が推進されています。

株式会社大塚製薬工場は、適正な栄養管理に役立つ情報や製品を継続的に提供することで、臨床栄養の領域における世界の人々のベストパートナーになるべく努力してまいります。

## 製品特徴

製 品 名	ラコール <sup>®</sup> 配合経腸用液(コーンフレーバー)
種 類	経腸栄養剤(医薬品)
包 装	200mL x 24 パウチ
効 能 ・ 効 果	<p>一般に、手術後患者の栄養保持に用いることができるが、特に長期にわたり、経口的食事摂取が困難な場合の経管栄養補給に使用する。</p> <p>《効能・効果に関連する使用上の注意》</p> <p>経口食により十分な栄養摂取が可能となった場合には、速やかに経口食にきりかえること。</p>
用 法 ・ 用 量	<p>通常、成人標準量として 1 日 1,200~2,000mL(1,200~2,000kcal)を経鼻チューブ、胃瘻又は腸瘻より胃、十二指腸又は空腸に 1 日 12~24 時間かけて投与する。投与速度は 75~125mL/時間とする。経口摂取可能な場合は 1 日 1 回又は数回に分けて経口投与することもできる。また、投与開始時は、通常 1 日当たり 400mL(400kcal)を水で希釈(0.5kcal/mL 程度)して、低速度(約 100mL/時間以下)で投与し、臨床症状に注意しながら増量して 3~7 日で標準量に達するようにする。</p> <p>なお、年齢、体重、症状により投与量、投与濃度、投与速度を適宜増減する。</p> <p>《用法・用量に関連する使用上の注意》</p> <p>本剤は、経腸栄養剤であるため、静脈内へは投与しないこと。</p>
貯 法	室温保存
使 用 期 限	製造後 13 ヶ月
発 売 年 月 日	1999 年 12 月 14 日
薬 価	182 円/200mL
製 造 販 売 元	イーエヌ大塚製薬株式会社
販 売 提 携	大塚製薬株式会社、株式会社大塚製薬工場

## 栄養成分組成について

「ラコール<sup>®</sup>配合経腸用液」の栄養組成は、エネルギー比率で脂質配合量を 20%、たん白質配合量を 18%とし、第 6 次改定「日本人の栄養所要量」を満たす組成となっています。エネルギー源や細胞膜の構成成分であり、また生理活性物質の前駆体として重要な脂肪酸には、 $\alpha$ -リノレン酸(n-3 系必須脂肪酸)を多く含むシソ油を使用し、リノール酸(n-6 系必須脂肪酸)と $\alpha$ -リノレン酸(n-3 系必須脂肪酸)をバランスよく配合しました。更に日本人のたん白摂取比率を基準に、動物性たん白質(乳カゼイン)と植物性たん白質(大豆たん白)の比率を 2:1 としました。